

第 1 1 回
東大和市社会教育委員会議 会議録

令和7年3月19日（水）

令和6年度第11回東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 令和7年3月19日（水）午前10時～12時
- 2 場 所： 中央公民館301学習室
- 3 出席委員： 池田陽子、外池武嗣、才郷正次、杉本誠一、森脇千春、
橋本智保子、半田道夫（7人）
欠席委員： 和田孝、鈴木進也（2人）
- 4 事務局： 岩野生涯学習課長、荻沢主事、岩渕主事（3人）
- 5 内 容： 議題（1）研修
 - ・親和自治会による講話
講師：親和自治会 防災部長 大村賢氏
 - ・防災に強いまちをつくる会による講話
講師：日本危機管理士機構 1級危機管理士 吉江直樹氏議題（2）その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： 0人
- 8 配布資料：（1）研修資料①親和自治会の防災活動ご紹介と“地域防災”に思うこと
②有事があった際コミュニティをどう形成していくか
（2）参考資料 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会（抜粋）

9 議事内容

(1) 講話

① 親和自治会による講話

大村賢氏（以下、「講師」という。）より、「親和自治会の防災活動ご紹介と地域防災に思うこと」について、講話をいただいた。

講話後、以下のとおり質疑応答があった。

・委員

他の自治体から、親和自治会の防災活動を知りたいなどの声は今まであったか。

・講師

そういった声はあって、防災訓練の時には、他の自治体からの参加者もある。ただ、親和カード（基本情報と支援して欲しい事項が記載）は特別な取組であると思うが、防災訓練でやっていることは、基本的なことである。

・委員

避難所に行かない方が良いという発言があったが、それはどういうことか。

・講師

トイレが悲惨な状態で衛生の面など、災害の際に関連死が多いことから、自分の家で安全を守ることが大事であり、ローリングストックを充実させ、在宅避難を徹底することが良いということである。

・委員

自治会の活動はどのくらい前からやっているのか。

・講師

5年前に自治会に入った。それまでは、自治会の活動には関わったことがなかったが、やってよかったと思う。地域の人とどのような関わりを持ちながら生活するかということは大事なことだと思う。

・委員

親和自治会の防災を担当している方の任期は決まっているのか。

・講師

自治会としての会長等の任期は1年。防災担当は任期がない。ある程度、何年かやってもらった方が理解は深まる。

・委員

これだけ色々な活動をしていると、自治会の予算では足りないと思うが、どうしているか。

・講師

この前の防災訓練の際に少し備品を買ったが、防災セミナーはほぼ無料。防災関係の年間の予算は昨年7千円くらい。自治会の予算自体は少なく、東京都からの助成金を活用したりして、できる範囲で活動している。

② 防災に強いまちをつくる会による講話

吉江直樹氏（以下、「講師」という。）より、「有事があった際コミュニティをどう形成していくか」について、講話をいただいた。

講話後、以下のとおり質疑応答があった。

・委員

発災時における火災防止のため、電気のコンセントを抜くという対策は現実的ではないと思うが、他の対応は可能か。

・講師

電気のコンセントを都度抜くことが望ましいが、困難な場合は、こまめにコンセントの掃除をしてほしい。

・委員

災害の際は電話が繋がりにくくなるが、それを改善するような動きはあるのか。

・講師

地震の際は、発信規制がかけられる。公衆電話が優先回線になる。

・委員

昨年、踊りフェスティバルで防災のブースを作って、防災に強いまちをつくる会の方に協力いただいた。今年も、楽しさの中に助ける人を育てるということをやろうと考えている。

・議長

今回、地震を中心にお話しいただき、普段から対策できることなどをお伺いできたので、そういったことをいろんな人たちに広めていけたらいいと思う。

（２）その他

・事務局

東京都市町村社会教育委員連絡協議会第２回理事会について及び令和６年度社会教育功労者表彰を受賞された荒川前議長について報告した。また、東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について説明した。

・副議長

本日の会議のまとめとして、自助と共助の意味について、資料をご用意いただき説明を受けた。自治会の価値や、コミュニティをどのように形成していくかということについて、私たちの研究に次回以降反映していけると思った。

・議長

本日の会議はこれで終了とする。次回開催日は、４／１５（火）午前１０時からで場所は、会議等第６会議室である。